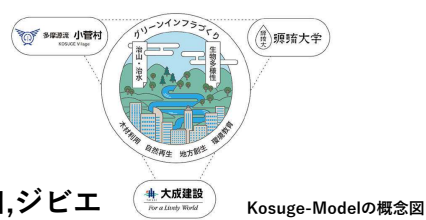


# グリーンインフラとしての源流地域づくり ～「Kosuge-Model」創出に向けた取り組み～



キーワード：小菅村,グリーンインフラ,ネイチャーポジティブ,流域治水,源流関係人口,ジビエ

## 背景

自然災害の激甚化・頻発化、生物多様性の減少が世界規模の課題として認識される中、その解決に向けて地球温暖化対策やネイチャーポジティブの取組みが加速し、国土の3分の2が森林で構成される森林大国である日本国内においても森林などの自然環境保全や生物多様性保全に関する活動が重要視されています。

一方で、少子高齢化・人口減少を要因とした森林整備の担い手不足や森林資源のアンダーユースによる災害防止機能の低下や生物多様性の損失の課題となっています。

## 多摩源流グリーンインフラ推進構想「Kosuge-Model」

自然災害や生物多様性損失の課題解決に向けて、流域全体での森林資源の循環利用に取組み、多様で健全なグリーンインフラ（GI）として機能する森への誘導が必要です。

大成建設は首都圏エリアにて事業を展開する企業として、首都圏を支える多摩川源流域を拠点に、森林環境・森林資源課題解決に向けて山梨県北都留郡小菅村での活動を開始しました。

大成建設株式会社、小菅村（山梨県）、NPO法人多摩源流こすげの3者で他流域にも展開可能な「Kosuge-Model」創出のための協定を2024年4月に締結しました。このモデルは流域全体で取組む治山治水と生物多様性保全の両立をテーマに源流域を拠点とする新たな「自然共生社会」の実現を目指します。



※多摩川源流図出展：(TRM) 多摩川流域全体の概要 | 京浜河川事務所 | 国土交通省 関東地方整備局 (mit.go.jp)

## 「Kosuge-Model」創出にむけた協定下における大成建設の取組み紹介（2024年度まで）

### ①木材利用と自然再生

小菅村内の間伐材を大成建設の新コモンスペース「ROCKai」に利用しました。材を切り出した3割間伐跡地では林床植生の回復を目指した自然再生を実施中です。

【実施内容】新コモンスペース「ROCKai」関係者による伐採作業の見学&保全活動、間伐跡地の防鹿柵の設置、地域由来の広葉樹の植樹、防鹿柵内の定期モニタリング（予定）

【参加者数】11名

【効果】木材を調達した小菅村を設計者や現場担当者が訪問し、森林資源の積極的な利用による社会的意義やグリーンインフラ機能の向上の実感や理解につながりました。



「ROCKai」と設計・施工担当者らの現地訪問

### ②社員研修

小菅村内で社員研修として森林保全活動を行いました。研修と森林整備の組み合わせは森林整備における人員不足の解消と、社員の環境教育、チームビルディングという、企業と村が相互にメリットのある活動を実施できました。

【実施内容】小菅村にて1泊2日で実施。森林内での野外講義、薪の製造体験、林内整備、防鹿柵の設置、ワサビ田の復旧作業

【参加者数】2023年度：47名、2024年度：94名

【効果】社員同士の交流が促進され一体感が醸成されました。山村地域の現状やサステナビリティといった社会的課題の実感や理解向上につながりました。社内外での展開の可能性を検討しながら、今後も継続を予定しています。



研修の様子

### ③大成ジビエ食堂

森林の林床植生を消失させグリーンインフラとしての機能を低下させるシカ被害が深刻化しており、小菅村においても例外ではありません。

そこで、森林資源・森林環境課題に対する認知向上を目的とした大成ジビエ食堂を開催しました。

この活動では社員食堂と都内2か所の作業所において、小菅村産のシカ肉を使ったランチを提供しました。

【実施内容】ジビエランチ提供、環境教育、特設Webページおよびポスターの掲載

【提供食数】2023年度：300食、2024年度：200食

【メニュー】鹿肉コロケ定食、鹿肉カレーライス等

【効果】社内外関係者も一緒にコミュニケーションを取る事が出来て、環境対策と共に良い機会となり、今後も継続を予定しています。



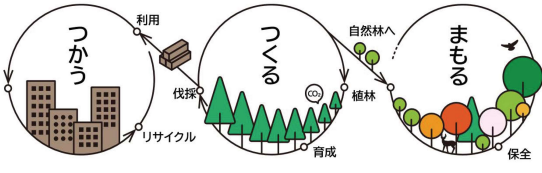
ジビエ食堂のポスター シカ肉メニュー

## 「Kosuge-Model」の創出を目指して（2025年度以降）

### グリーンインフラに資する広葉樹林化手法の検討

源流域を拠点とした新たな自然共生社会の実現に向けた取組みとして検討予定

- 3割間伐地を広葉樹を主体とした二次林へ効率的に生育させる技術開発
- 広葉樹林化によるグリーンインフラの効果を測るモニタリング手法の確立
- 地域遺伝子に着目した小菅村産種苗の生産検討と多摩川流域への展開



©福島 真理子・恩田 幸昌・鈴木菜々子（大成建設）、石坂 真悟・青山 大我（NPO法人多摩源流こすげ）、久住 侑士・奥秋 一俊（小菅村役場 源流振興課）

企業部門